

一谷の情流

岩手県立軽米高等学校 学校通信 49号 令和2年3月9日発行

令和元年度 3月1日(日) 45名の旅立ち







1組代表 井戸渕 七海

2組代表 池端 蓮



校長式辞より

西洋のことわざ「艱難 汝を玉にする」"困難や苦労に出会 い、悩みや苦しみを経験することで、人は磨かれ、立派な人間 に成長する"という意味。

中国唐時代の詩人、李白は「天 我が材を生ずる。必ず用あ り」"天が私という人材をこの世に生み出したのだから、必ず役 に立てることがあるはず"と言っている。

生活の中で喜び、悲しみ、苦しみ、笑い、泣き、感動し、困 難や苦労も自分に与えられた役割として受け止め、全てが自分 に与えられた人生として、楽しみ、時に失敗や後悔を重ねなが らも、そこから色々なことを学び、一歩一歩成長して「自分の 花を咲かせよう。この学舎を巣立ちゆく卒業生の前途に、幸多 からんことを祈る。



髙橋校長式辞

来賓祝辞 山本町長 中里 PTA 会長 松浦同窓会長

在校生代表送辞 松橋 駿人





在校生代表送辞より

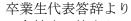
先輩方が私たちを引っ張 ってくれた日々を感慨深く 思い出している。応援歌練 習、クラスマッチ、軽高祭 生徒会活動、部活動等。

常に私たちの模範となりた くさんのことを残してくれ た。進路選択では、夢をあ きらめず、毎日毎日自分の 目標へ向かって頑張り、ど んな壁も乗り越えてきた姿



は、先輩方の志の高さを物語っており、私たちも見習わなけれ ばならないと実感した。先輩方が築いてきた伝統を継承、発展 させていくことを誓う。





在校生の皆さん、部活動や行事で私たちを信じてついてきてくれたことに卒業生一同心から感謝します。

先生方、私たちが思い悩んでいた時、親身になって話を聞いて、自分で解決できるようアドバイスをくれました。三年間でいただいたプリントや教材の量は驚くほどで、その一つ一つが目標達成のために欠かせないものでありました。

お父さんお母さん、私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれました。いつも感謝しています。

卒業する私たち自身に問いかけたい。ここで過ごした時間 はどんなものだった?この三年間で変わったことは何でしょ うか?変わらず持ち続けているものは何でしょうか?入学式 に思い描いた自分には近づけましたか?夢を目標に変えられ ましたか?ここでの日々に悔いはありませんか?

ここにいる 45 名は、一生の仲間であり、最高のライバルであり、かけがえのない存在です。皆とともに過ごした日々は本当に幸せでした。ありがとう。

この軽米高校で得た多くの思い出、学び、誇りを人生の糧 として、力強く生きていくことを誓います。













新型コロナウィルスの感染拡大防止を踏まえ、 式次第の変更や規模の縮小、マスクの着用、生徒 会歓送会の中止など例年とは違う形で卒業式を挙 行いたしました。ご理解ご協力いただきました皆 様に感謝申し上げます。

